



2020-2021 主題

国際会長(IP) : Jacob Kristensen (デンマーク)

主 題 “VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP”

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」

スローガン “TRUST IN THE OF LIFE” 「命の川を信じよう」

アジア太平洋地域会長(AP) : David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

東日本区理事(RD) : 板倉 哲也 “Let's enjoy Changes.”

「変化をたのしもう！」

湘南・沖縄部長(DG) : 古田 和彦 「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に使えよう」

つるみクラブ会長 : 久保 勝昭 “良きつながりを持って”心ひとつに

「無理のない奉仕活動を」



会 員 増 強 に 思 う こ と

横浜つるみワイズメンズクラブ会長 久保 勝昭

2020年2月のクラブのブリテンに「つるみクラブと会員増強」というテーマで原稿を書きました。この頃、コロナ禍もそれほど広がりもなく「WHO」もニュースでは世界中が、この様に大混乱になる予想すら考えていなかった様におもいました。また私自身も、この事はあまり重く受け止めていませんでした。

2019年10月のエクステンション委員会で、つるみクラブは2022年まで6名を増強する等、大みえをきってしまいました。2月1日東京YMCAで行われた2019~2020東日本区 Change! 2022のシンポジウムに参加し、そのノウハウを学んだ。「ワイズの抱える課題」「地域に根ざしたワイズ独自の魅力あるCS活動」「16名~36名へ、会員増強の実践・甲府クラブ」それぞれのテーマに沿って活発な議論がなされた。まとめとして

- 各種会合、キリスト教の儀式を見直し、全ての人が入りやすいクラブ運営、違和感のないプログラム入りたくなるワイズの雰囲気をつくる。
- 奉仕活動をする喜び、そこから生まれる人と人との絆の大切さ。

少なくとも、2月までは、状況に対応した改革、活動、絆が生れつつあった。

ところが2020年3月、非常事態宣言が発出されて以降、クラブ存続の危機さえ感じるようになった。2021年2月、非常事態宣言（東京、神奈川、千葉、他）が3月7日まで延長されたが、今度は多少、終息に向かう事を信じ、改めて会員増強に真剣に取り組むために、自分の歩んだワイズライフの道を辿ってみた。

2010年（チャーター1977年）横浜ノースクラブが解散しました。私もクラブには1983に入会し、解散時の手伝いもしましたので27年間いた事になります。当時のメンバーは30歳半ばの人が多く、かなりのプログラムをこなしていた。

北YMCAとも「障害者」を支えてきた「共に歩む委員会」の活動は、ワイワイ運動会、ワイワイ雪上キャンプ、ワイワイ地引網など、障害者と健常者が同じ立場に立ち、一緒になってプログラムを楽しんだものでした。また恒例になっていた“クリスマスチャリティーパーティー”は毎回200名ほどの参加者があり、その盛り上がりが地域協力募金、障害者と共に歩む委員会の資金援助に長年に渡り繋がっていきました。メンバーも15名ほど、いた事を記憶している。

その後2005年頃から高齢化にともなう病気等で、毎年メンバーも減少をたどり2010年に33年の幕を閉じました。この時に感じた事は、どんなボランティアクラブであっても精神力だけでは解決出来ない問題がある。会員の高齢化はいつの時代でもつきまとう。

その後北YMCAの運営委員長を5年、2015年にはつづきクラブに入会、つるみクラブを作るまで3年半、クラブライフの楽しさを学んだ。You & Iコンサート、みやま荘・つばめの杜保育所訪問、富士山例会、クリスマス夕食会、移動例会、料理ボウ等のユニークな活動に、ノースクラブとは違ったものを感じた。

つるみクラブもやっと2年目に入りました。退会者は一人もなく来ましたが、今後、魅力あるクラブにするために、奉仕する喜び、入会したくなる雰囲気作りのために、メンバーの絆を大切にしたい。

第 5回 エクステンション委員会

日 時 2021年1月21日(木)

会 議 ZOOM方式

出席者 辻 剛氏、古賀健一郎氏、千葉祐子氏、日下部美幸氏、佐藤節子氏、
小松仲史氏、久保勝昭氏、久米康子、

1. 挨拶 部長、各委員

2. 第4回委員会議事録(古賀書記)説明、承認の件
全一致で承認されました。3. 部新入会員の入会金(6,000/人)は、部が支給する事とする。
第3回評議会(4/17)の議案として提案し、承認を得ることとしたい。
(2020年7月1日~2022年12月31日)に変更する。
(新設クラブメンバーに対する補助に同じ)

4. 各クラブ会員増強への取り組み報告(各委員の報告)

5. つながりマスク&絵本読み聞かせ準備会構想の件(辻委員長、千葉祐子委員)報告
約1,000枚ものマスクを横浜YMCAのご協力もあり、贈呈してきた。

YMCA	横浜中央 YMCA	湘南 YMCA	厚木 YMCA
	川崎 YMCA	つるみ YMCA	
YMCA 関連先	横浜寿地区センター	北海道	宮城県山元町

当初5~6名のマスク制作者人数が現在は、21名まで増えた。ワイズ会員でないメネットを含め一般の方が、7~8名いた。11月30日横浜寿地区センター三森牧師を訪ね100枚のマスクを贈呈。各方面で求める方々が多く、今後も「つながりマスク」を継続

* 子供達への「絵本の読み聞かせ」活動の提案 (千葉委員)

部を超えての取り組みをしたい。

東日本区には、日本の一流出版社福音館にいた佐藤茂美ワイズ(東京クラブ)にご協力の確約を得た。

次回日程

* 2021年2月25日(木) 19:00~

* 会議形態 対面方式、ZOOM ハイブリット

“ 耳より情報 ”

* コロナに強いのを作ろう

1. 舌の健康状態を知ろう。まず口を閉じた時、自分の舌先がどの状態かを、知りましょう。

◎ 自然に口を閉じた時、自分の舌先が、下の歯茎に当たっている人は、少し喉の
情態が、弱っています。

◎ 上の歯茎に舌先が、当たっている人は、正常情態。

2. 誰でも出来る喉の状態を、強くする方法

◎ 「いー」と発声し、10秒間力を入れてキープする。

◎ 「あー」と発声し、10秒間舌を自然に出してキープする。

◎ 毎日10回位試みる。2週間位で回復する。

3. 鏡を見て舌の上が、白いのは、舌苔の汚れであり、寝る前に舌ブラシで、優しく
取り除いてあげる。1日1回で良い。

* 喉の状態を強くする事で、細菌やウイルスに強くなり、風邪等に掛かりにくい。

又早く回復すると言われています。

* 少し難しい「うがい」の仕方に挑戦しよう。

◎ 舌を自然に出して、水でガラガラとうがいをする。喉の奥までうがいできる。
最初はむせるが、馴れると喉がスッキリする。(久米 康子 記)

～ 鶴見地域活動報告「節分について」～



通常節分は、その名の通り、季節の分かれ目。立春の日の前日となります。しかし、節分が毎年2月3日ですが、今年は2月2日になりました？



なぜ立春の日がずれるかという、わかりやすく言うと閏年(うるうどし)と同じ感覚です。1年間を二十四節気に当てはめて定期的な運用をしようとすると、1年に少しずつ誤差が出てきて、ずれが生じるわけです。ずれた結果、2021年は2月3日が立春になり、節分が2月2日となりました。私が生まれて、50年以上たちますが、初めての事でした。次は周期が短く、2025年の節分が、2月2日になります。鶴見中央のデイサービスでは、毎年節分行事が行われますが、今年は鬼もマスクをして、感染症予防対策を実施したうえで、行うことができ、大いに盛り上がりました。

鶴見中央 YMCA 島田 徹



♡ ハッピー子育てパパ講座を実施しました ♡

0歳～3歳児、もうすぐパパになる方を対象としたパパ講座を実施しました。初めてオンラインで開催しましたが、参加者の意見や質問を伺いながら、活発な意見交換ができました。「赤ちゃんを抱くと必ず泣いてしまう、どうしたら良いか分からない」との質問に「そのような時期もある。怖がらずにスキンシップを取り続けると必ず変わる」や、抱っここの工夫点など、さまざまなアイデアが出されました。

3年前に実施したパパ講座から「つるPaPa」(サークル)が立ち上がり、現在は「つるPaPa」メンバーが講師となり、ご自身の経験を紹介してくださっています。

参加者からは「サークルに入りたい」「自分だけの悩みではないと分かりホッとした」との声もありました。新型コロナウイルスの影響もあり、相談したり交流したりすることが難しい状況ですが、オンラインを活用して新しいつながりができたと感じました。

コロナが落ち着いた後には実際にみなさんとお会いする機会を作る予定です！

鶴見中央 YMCA 鈴木 亜希



カメラに向かって「ふれあい遊び」のアイデアを紹介している様子

☆ 幼保連携型認定 YMCA 鶴見保育園の紹介をさせていただきます ☆



現在、72人の園児が在籍しています。

コロナ禍の中で制限も多いですが、子どものやりたい気持ちを受け止めながら、今できる活動を続けています。また、スタッフも日々、検温と体調チェックをし、自分の体調管理にいつも以上に気を付けながら過ごしています。

保育園の開園以来16年が経ちました。園庭の遊具の老朽化に伴い、遊具を撤去いたしました。撤去の前に、入園してからずっと遊んで怪我をしたり、喧嘩したり、楽しかったり、思い出のいっぱい詰まった遊具です。みんなでめいっぱい思いおもいの絵を描いて遊びました。小さく丁寧に描く子、ダイナミックに力いっぱい描く子…などそれぞれの子もたちが思いを表現し、感謝の気持ちを込めました。

今は更地になった園庭で思うぞん分走りまわっています。これから子どもも、大人も一緒に意見を出し合いながら、新しい園庭をデザインしていきたいと思っています。

つるみ保育園 田邊 朋美



お絵描き前

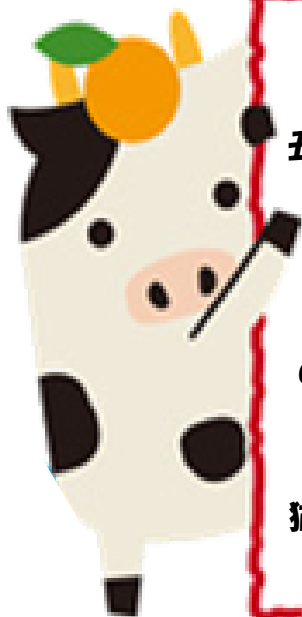


お絵描き後



更地になった園庭で
広々と遊んでいます

☆ ツルのひとこと ☆



丑

十二支のはじまり

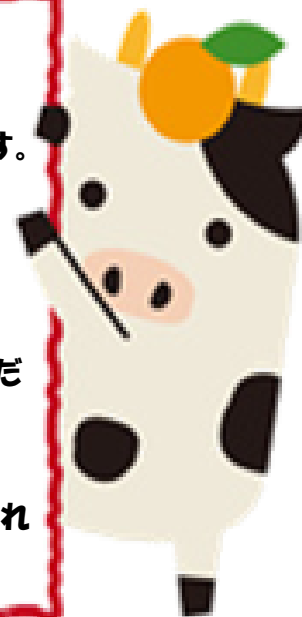
今年は丑年、私の年です。

丑という字は、「刀」に「ニ」と書くといいそうです。

神様が森の動物達に言いました。

「正月一日の朝、御殿に来たものから準に十二番まで、その年の大将にしてあげよう」
 のろまな牛は、前の晩から出かけたので、一番乗りだ
 と思いました。ところが、牛の背中に乗っていた
 ねずみが、一番に飛び込みました。
 猫はねずみに、行く日は「正月の二日だよ」と教えられ
 ていたので間に合いませんでした。

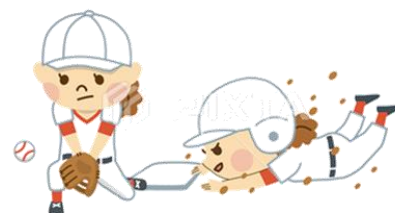
(渡邊 光枝 記)



ソフトボール部での活躍

私がソフトボールを始めたのは高校の時でした。陸上部に入っていた時、友達にソフトボール部の友達がいる、陸上の練習が終わった後、友達とキャッチボールをして遊んでいました。一学期で陸上部をやめた時、ソフトボールの監督が私に「おまえの足をソフトボール部にかしてくれ」と言われ、ソフトボール部に入りました。最初は、レフトやセンターの外野を守備、走り回って相手のボールを受けアウトにしていました。2年生からは、主将となり頑張っていました。

一人娘が小学校に入学し、その小学校で父兄ソフトボール大会があって、それに参加した時、近くの町のママさんソフトボールの監督に「うちのママさんソフトボール部に入ってくれ」と言われ入ることにしました。毎週日曜日が練習日で大変でした。私のチームは、川崎の幸区のチームで、幸区には5チームがあり年1回大会があり大変でした。私は一番バッターで守備は三塁でした。ある年の大会の前日、監督から「今回の大会は必ず優勝してくれ」と言われました。内の監督は幸区でも一番の監督でした。優勝したら他のチームの監督達に夕食をご馳走になると約束したようです。みんなあきれましたが、でも優勝したいので、みんな強気で頑張ることにしました。試合が始まり、私は一番バッターなのに「バウト」のサインがでます。一塁にも二塁にもランナーがないのに、バウトのサインです、という事は、いい所にバウトして一塁でセーフになれという事です。私はがんばってバウトし、一塁でセーフになりました。体も小さいのでホームランのような大きいのは打てません。ラインスレスレの所や、守りのいない所に打ってランニングホームランを数本打つ事が出来ました。みんなも頑張ったので優勝を勝ち取る事ができました。次の練習日に、監督が上機嫌で皆にお礼を言いながら言っていました。「次の日から毎晩宴会で、最高だったよ」と喜んでいました。その時、私も、町長から表彰されました。その後、数年間ソフトをやり続けました。



(駒井 恵美子 記)

※ 緊急事態宣言の3月7日までの延長決定を受け、例会・役員会・クラブの活動を中止

※ 今後の予定 つるみクラブ例会 2021年3月12日(金) 16:00~18:00